

# ガザの空輸 - ただの煙幕

2025年3月3日以降、イスラエルは**230万人が住むガザ地区に完全な封鎖**を課しています。そのほとんどが子供です。財務大臣ベザレル・スモトリッチは「**ガザには一粒の小麦も入れない**」と宣言しました。この宣言はジェノサイド政策となりました。その後の数か月で、ガザは**統合食糧安全保障フェーズ分類（IPC）**が定める最も壊滅的なレベルである**フェーズ5の飢饉**に陥りました。

2025年7月までに、ガザの病院は麻酔薬と食料が不足し、医師たちは手術中に空腹で倒れ、数十人の子供たちがすでに飢餓で死亡していました。「私たちは他人を治療しながら、自分自身が治療を必要としている」と、ガザの外科医**ファディ・ボラ博士**は、空腹のまま12時間のシフトを終えた後に書きました。これは戦時中の混乱ではありません。これは**意図的な飢餓**であり、政策として武器化されています。

## 法的ケース：イスラエルの明白な違反

占領国として、イスラエルは**第四ジュネーブ条約第55条**に基づき、食料と医療物資の提供を確保する法的義務があります。しかし、イスラエルはガザに入るすべての援助を妨害し、爆撃し、統制しています。

慣習国際人道法に基づき、**戦闘方法としての民間人の飢餓は戦争犯罪**です（ローマ規程第8条(2)(b)(xxv)）。また、ジュネーブ条約の**共通第3条**の重大な違反でもあり、「生命と人に対する暴力」を禁じ、欠乏による死を引き起こす行為も含まれます。

イスラエルはまた、**2024年1月と3月に国際司法裁判所（ICJ）が発した暫定措置に違反**しています。この措置は、人道援助を許可し、ジェノサイドに寄与する行為を防ぐことを要求していました。これらの措置は拘束力がありますが、イスラエルは公然と無視しています。

## 国際的な保護責任

イスラエルの義務を超えて、すべての国連加盟国は**ジェノサイド条約**に縛られており、ジェノサイドの**防止**を要求されます。事後的な処罰ではありません。**2007年のICJのボスニア対セルビア判決**はこの義務を確認しました：介入する能力があった場合に何もしなかった国は責任を問われる可能性があります。

**保護責任（R2P）**の枠組みはこれを強化します：国家がその人口を保護する意思がない、またはできない場合、あるいは加害者である場合、国際社会は**行動しなければなりません**。ガザでは、世界は行動していません。むしろ、それを可能にしています。

## 時系列が重要：2025年7月27日まで空輸なし

一般的な誤解を正すことが重要です：**2025年3月から7月まで空輸は行われませんでした**。イスラエルの封鎖の重要な初期の数か月間、飢饉の状況が急速に悪化した時期に、**イスラエルは空輸を一切許可しませんでした**、そしてほとんどの国がそれに従いました。

**2025年7月27日**に、国際的な圧力が高まり、骨と皮だけになった子供たちや崩壊した病院の映像が否定できないものとなった後、ようやく空輸が再開されました。つまり、封鎖の最初の**144日間**は**空中からの援助物資の配送がゼロ**でした。

## 2025年7月27日以降の記録された空輸

入手可能な記録は以下の通りです：

日付	参加国	援助の量	使用された航空機（分かっている場合）
2025年7月27日	ヨルダン、UAE	25トン	未指定
2025年7月31日	おそらくヨルダン、UAE	43援助パッケージ	未指定
2025年8月1日	スペイン、フランス、ドイツ、エジプト、ヨルダン、UAE、イスラエル	126パッケージ（約57トン）	混合：C-130およびA400Mが確認済み

これらの配送は、複数の国と近代的な航空機が関与しているにもかかわらず、著しく不十分です。国連は、ガザで最低限の人道基準を満たすためには**1日あたり2,000～3,000トン**が必要と推定しています。**8月1日に配送された57トン**は、その必要量の**3%未満**にすぎません。

## ベルリン空輸とガザ空輸：事実に基づく比較

作戦	1日あたりのフライト	1日あたりのトン数	総期間	使用された航空機
ベルリン空輸（1948–49）	約541	約4,978	15ヶ月	C-47（3.5トン）、C-54（10トン）、Avro York
ガザ空輸（2025）	約2～4（7月27日からのみ）	22～57（ピーク）	1週間（進行中）	C-130、A400M（最大37トンの積載量）

近代的な航空機と優れた物流にもかかわらず、ガザの空輸は**象徴的なジェスチャー**にとどまり、戦略的な介入ではありません。ベルリン空輸は、戦後の環境でより古く小さい飛行機を使って**220万人の人々**を1年以上支えました。ガザの人口はほぼ同じですが、国際的な対応は**桁違いに小さい**です。

## なぜこれが重要か：空輸は煙幕

その対比は衝撃的です。ベルリンでは、世界は**超大国に立ち向かい**、都市を救いました。ガザでは、世界は**地域の大国に従い**、共犯の域に達しています。

今日の空輸は本当の解決策ではなく、**PRツール**として機能しています。西側政府がイスラエルの封鎖に直接立ち向かわずに**国内の怒りを鎮める**ための方法です。それらは**戦略ではなく、煙幕**です。

## ICCとICJが問う：十分なことがされたか？

法的な清算がやってきます。**国際刑事裁判所（ICC）と国際司法裁判所（ICJ）**がガザの飢饉を評価する際、次の質問をします：

「十分なことがされたか、もっと早くできたことがあったか？」

その答えはこうなります：

「**少なすぎる。遅すぎる。そして意図的にそのように。**」

- **少なすぎる**：近代的な航空機と国際的な調整にもかかわらず、配送された援助は**可能な量のわずかな一部**でした。
- **遅すぎる**：それは**世界的な怒りがピークに達した後**、そして飢饉がすでに**壊滅的で不可逆的なレベル**に達した後でしか始まりませんでした。

この評決はイスラエルだけでなく、**この残虐行為を可能にした政府を連座させます**：

- **アメリカ合衆国**、イスラエルを外交的に保護し、武器を供給したこと。
- **ドイツ**、停戦の言葉を阻止し、軍事物資を輸出したこと。
- **イギリス**、封鎖に挑戦することを拒否しながら、象徴的な援助を提供したこと。
- そして、飢餓が戦略となることを許した他の国々。

## 歴史は彼らを許さない

1948年、世界は史上最大の人道空輸を組織しました。2025年には、**一つの人口全体を飢えさせ**、骨と皮だけになった子供たちがスクリーンとタイムラインを埋めた**後でのみ**、象徴的な空輸を提供しました。

清算はやってきます - **法廷で、アーカイブで、そして未来の世代の判断の中で**。